

特定行為区分	術後疼痛管理関連		時間	8
特定行為名	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整			
学ぶべき事項	(共通) 術後疼痛管理関連の基礎知識	1. 硬膜外麻酔に関する局所解剖 2. 硬膜外麻酔を要する主要疾患の病態生理 3. 硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント 4. 硬膜外麻酔の目的 5. 硬膜外麻酔の適応と禁忌 6. 硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）		
	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	1. 硬膜外麻酔薬の選択と投与量 2. 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整の方法		
研修概要	(共通) 術後疼痛管理関連の基礎知識	術後疼痛管理の必要性やその特徴を理解し、硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整を実践できる看護師を養成する。		
	(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	医師の指示の下、手順書により、身体所見（疼とう痛の程度、嘔気や呼吸困難の有無、血圧等）、術後経過（安静度の拡大等）及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、硬膜外カテーテルからの鎮痛剤の投与及び投与量の調整を行う（患者自己調節鎮痛法（PCA）を除く）。		
到達目標	1. 医師の指示の下、手順書により、医療面接、身体所見及び検査結果等が医師から指示された病状の範囲にあることを確認し、硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整ができるようになる。			
	2. 手順書案を作成し、再評価、修正できる能力を養う。			
	3. 医師、歯科医師から手順書による指示を受け、実施の可否を判断するために必要な知識を養う。			
	4. 実施、報告の一連の流れが適切に行える。			
評価方法	講義：eラーニングの受講及び講義確認テスト			
	演習：ペーパーシミュレーションによる演習及び模擬講義			
	試験：eラーニング上もしくは集合で実施			
研修内訳	講義（7時間）	視聴時間45分＋講義確認テスト15分		
	演習（1時間）	視聴時間（イントロ）5分＋グループワーク45分＋視聴時間（解説）10分 ※演習はeラーニング教材を活用して指定研修機関で行う		
	試験（任意）	試験は指定研修機関ごとに時間・設問数など設定してご利用ください		

学ぶべき事項		講師	所属	研修方法	通番
(共通) 術後疼痛管理関連の基礎知識	硬膜外麻酔の目的、適応と禁忌、局所解剖、主要疾患の病態生理	谷口 英喜	済生会横浜市東部病院 周術期支援センター長／日本麻酔科学会指導医	講義	1
	硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）（1）	谷口 英喜	済生会横浜市東部病院 周術期支援センター長／日本麻酔科学会指導医	講義	2
	硬膜外麻酔に伴うリスク（有害事象とその対策等）（2）	谷口 英喜	済生会横浜市東部病院 周術期支援センター長／日本麻酔科学会指導医	講義	3
	硬膜外麻酔を要する主要疾患のフィジカルアセスメント	谷口 英喜	済生会横浜市東部病院 周術期支援センター長／日本麻酔科学会指導医	講義	4
(A) 硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整	硬膜外麻酔薬の選択と投与量（1）	谷口 英喜	済生会横浜市東部病院 周術期支援センター長／日本麻酔科学会指導医	講義	5
	硬膜外麻酔薬の選択と投与量（2）	谷口 英喜	済生会横浜市東部病院 周術期支援センター長／日本麻酔科学会指導医	講義	6
	硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整の方法	谷口 英喜	済生会横浜市東部病院 周術期支援センター長／日本麻酔科学会指導医	講義	7
	ペーパーシミュレーション（硬膜外カテーテルによる鎮痛剤の投与及び投与量の調整）	谷口 英喜	済生会横浜市東部病院 周術期支援センター長／日本麻酔科学会指導医	演習	8

術後疼痛管理関連 科目修了試験	試験	-
-----------------	----	---